

令和元年7月18日

各 位

八 戸 市 医 師 会
臨 床 検 査 セ ン タ ー

お 知 ら せ

平素、当検査センターをご利用いただきありがとうございます。

インスリンの新規検査と、セット検査項目内容の変更についてお知らせいたします。

1. インスリン（IRI）は外注委託しておりましたが8月1日から検査センターで検査いたします。

依頼する時は、**新依頼書が配布されるまでは現在の依頼書1の連絡事項に記入をお願いいたします。**（現行の依頼書1も併用可能です。）

| | |
|------|--------------------------------|
| 測定方法 | CLEIA法 |
| 参考範囲 | 1.84～12.2 μ IU/mL |
| 採取法 | 全血用分離剤容器に3mL |
| 提出方法 | 負荷前は全血ラベル、その他負荷検体は汎用ラベルを貼って下さい |
| 保険点数 | 109点 |

臨床的意義 インスリンは膵 β 細胞で産生されるホルモンで糖代謝異常を示す疾患の診断、鑑別、治療効果の判定に広く利用されています。

●**血糖とインスリンが同時に依頼された場合、次の初期分泌指標、HOMA-Rを計算し一緒に報告します。**

*インスリン分泌能の指標：**初期分泌指標**＝ $\frac{\text{インスリン30分値} - \text{インスリン0分値}}{\text{血糖30分値} - \text{血糖0分値}}$

境界型や正常型でもこの指標が**0.4未満**では糖尿病になりやすいことが知られています。またインスリン値は負荷30分後にピークとなりその後速やかに下降します。30分値より120分値が高い場合はインスリン分泌遅延を示し、分泌能低下の所見となります。

* インスリン抵抗性指標： $HOMA-R = \frac{\text{空腹時インスリン値} \times \text{空腹時血糖値}}{405}$

糖代謝の状態を知るためには必ず血糖と合わせて測定する必要があるが、空腹時の両者の値からインスリン抵抗性の指標を求めることができる。**1.6以下は正常、2.5以上で抵抗性が疑われ**、2型糖尿病ではインスリン抵抗性の例が多い。(ただしインスリン治療中の患者には用いない)

2. 肥満セット検査項目内容を8月1日より変更いたします。

| セット名称 | | 新 | 旧 |
|-------|---------|--|---------------------------------------|
| 肥満セット | 項 目 | AST, ALT, TC, HDLC, TG, FPG, HbA1c, UA, インスリン | AST, ALT, TC, HDLC, TG, FPG, HbA1c |
| | 保 険 点 数 | 2 5 1 点 | 1 4 2 点 |